大学における環境学を基礎とした教養科目「人間と環境」の構想

学籍番号1716　氏名　西川祥子
指導教官　市川智史助教授

1．はじめに

今日に生きる我々にとって、環境問題に対応していくことは、大きな課題となっている。その課題へ対応していくために、環境教育の研究を進めていく必要がある。しかしながら、小学校・中学校を対象とした環境教育の研究が比較的活発に行われているのに対して、大学を対象とした環境教育の研究は、十分に行われてはいない。このことから演者は、環境や環境問題を総合的に扱う、大学教養レベルの環境科目を構想する研究を行うことにした。その際に、科目の構成基盤に環境学を据えることにした。その理由は、環境学が環境や環境問題に総合的に取り組む研究領域だからである。しかしながら、環境学の歴史と現状の分析を試みた研究報告に従うと、環境学の体系を明確化することは、将来的には可能であるかもしれないが、現時点では困難であると考えられている。このことから、本研究では第一に、環境学の体系ではなく、特質を考察し明らかにする。第二に、環境学の特質を基盤として大学教養レベルの環境科目を構想する、ことを目的として研究を行った。科目名は、「人間と環境」とした。

2．環境学の特質の分析

環境学の論文と著書を次の方法で選定した。1．データーベースでの検索（「雑誌記事索引」（論文の選定）、「NACSIS Webcat」（著書の選定））、2．冊子版「雑誌記事索引　科学技術編」での検索（1970-1974 年）、3．シンポジウム（日本環境学会「「環境学」の枠組みと役割を考える」（1996 年開催）、環境科学会「環境科学における研究対象の全体と要素の取り扱い」（1992-1999 年に開催））の発表者の著書・論文の調査。

選定した環境学の著書・論文の特質の調査を行った結果、①環境学の「目的」に関する特質は、環境問題の解決や予防も含めて「よりよい環境を実現すること」にあること。②環境学の「研究対象」の特質は、「人間とその環境を研究対象とする」こと。③環境学の「研究方法」の特質は、「環境や環境問題に関する要素を分析し、関連・総合させる」こと。④その他の特質は、「要素分析主義の見直し」、「環境に関する知識、方法、学問の体系化」、「人文・社会・自然科学の融合」、「個人で学際研究をすること」にあることがわかった。

3．大学の環境学の教科書の分析

次に、NICHIGAI の BOOKPLUS でインターネット検索し、「大学の講義を基にまとめた著書、大学の講義で教科書あるいは参考書籍として利活用されることを念頭において編集・執筆されたもの、大学生を対象に書かれた一般書」7 冊を抽出した。抽出した教科書について、「扱う環境の空間レベル」、「環境学と称する意図」、「環境学の理念」、「教科書の対象者」、「教科書

の位置づけ」、「教科書の目的」の６項目について調査した。調査結果のうち「教科書の位置づけ」と「扱う環境の空間レベル」の結果を関連させて考察すると、教科書を「入門テキスト」、「一般教養書」、「入門書」、「基礎教育のための教科書」のように教養レベルと考えられる位置づけをしていたのは、「地球環境を含めて、環境について全般的に扱っている」教科書であった。また、「環境学の理念」と「教科書の目的」を関連させて考察すると、「環境学の理念」を示している教科書は、その理念を展開することを「教科書の目的」にしていた。「環境学の理念」を示していない教科書は、「環境問題全般にわたって解説する」、「環境に関する全般的な事項について幅広く概論的に述べる」ことなどを目的としていた。

次に、教養レベルと考えられる教科書で取り扱っている内容を調査した。その結果、「個別の環境問題」、「環境問題（特徴・特色・構造・展開など）」、「環境」、「近代科学技術（歴史・自然への加害）・環境対策技術」、「法（環境基本法・環境関連法）」、「政治・政策（過去の事例・取り組み）」などを中心として取り扱っていることがわかった。

4. 教養科目「人間と環境」のカリキュラム構想

環境学の論文・著書を対象とした特質の調査と、大学の環境学の教科書の調査結果から得た示唆を基に環境科目を構想した。

演者は、「よりよい環境の実現」という目標を、社会変革という視点で捉えた。また、変革の方向性を、立場が異なる２つのシナリオで示したいと考えた。シナリオの一方は、経済成長を前提として、CO_2の排出量と廃棄物量の削減を目指す環境省の「循環型社会に向けた３つのシナリオ」であり、もう一方は、究極的には石油消費量（CO_2排出量）をほぼゼロとすることを目標とする、内藤正明の「環境調和型社会」のシナリオである。そして、目標を「一連の知識から社会変革の必要性について理解させ、シナリオを選択（意志決定）するという課題を通して、社会変革への参加意識を養う」ことに据えて、科目を構想することにした。

教養科目「人間と環境」のカリキュラム

第１時	地球環境の形成
第２時	自然生態系・都市生態系
第３時	文化・文明史
第４時	文化・文明の発展に伴う環境問題
第５時	経済社会史
第６時	市場経済・資本主義の特質
第７時	現代の環境問題Ⅰ
第８時	現代の環境問題Ⅱ
第９時	人間の欲求について考える
第10時	環境倫理の考え方と基本命題
第11時	功利主義について考える
第12時	持続可能な社会とは
第13時	循環型社会
第14時	社会変革のシナリオ
第15時	意見・感想文の提出

この目標を達成するために必要な内容として、①社会変革の必要性に関連する内容②シナリオ自体に関連する内容③シナリオを選択するための視点を与える内容、が考えられる。この内容を満たし得るものとして右記のカリキュラムを構成した。科目の対象学年は１～2 回生、講義形式、半期２単位（第１～15 時）、１講義時間 90 分として作成した。